

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270400203		
法人名	医療法人済寿会		
事業所名	グループホームあしたばの家		
所在地	青森県黒石市末広6番地1		
自己評価作成日	令和2年9月3日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームからは、のどかな田園風景や岩木山を望むことができる。介護老人保健施設や居宅介護支援事業所、通所リハビリテーションが併設されており、充実したケアを提供できる体制となっている。園庭があり、さまざまな野菜を栽培し、収穫して味わっている。地域との交流に努めており、文化祭への出品や保育園訪問、買い物、祭りへの参加等、ホーム外の人々とのふれあいも大切にしている。また、エコ活動やホームの行事にボランティアの協力を得ている。お風呂は源泉かけ流し温泉である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景と岩木山を望む、豊かな自然環境となっている。ゆったりと寛げる家庭的な雰囲気のホールの中で、笑顔を絶やさない職員のもと、いきいきと自分らしく笑顔で暮らすことができる。栄養士の栄養管理のもと、職員が地元の食材を使って調理した料理の提供を受け、楽しい食事時間を過ごしている。毎日の足湯とマッサージを楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念を掲げ、サービスを提供している。理念を職員室やホール、玄関等に提示し、朝に唱和している。また、ミーティング時に話し合いを行い、理解と共有を図っている。	「利用者の認知症防止と生きがいづくり」ではじまる基本理念と、それにプラスする形で分かり易く表現した「いきいきと自分らしく笑顔で暮らせる家」を定め、ホール等に一緒に掲示している。朝夕の申し送り時に唱和する等し、職員間で共有して笑顔を引き出すケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民と気軽に声を掛け合う等の日常的な付き合いができるように、祭りや文化祭に作品の出品等をしている。また、保育園を訪問する等、地域と交流が行われている。	夏祭りに参加したり、地域ボランティアや訪問を受け入れる等、基本理念にある「地域住民との交流」を積極的に実施してきたが、現在はコロナ禍のため休止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族に地域との関わり大切さをお話して理解してもらっている。また、併設の施設等にホーム便りを配布している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、取り組み内容を報告している。また、行政からの情報収集をしながら、利用者のサービス向上に活かしている。	奇数月の第3金曜日に開催している。今年度は新型コロナウイルスの影響により7月から開催している。会議には、入居状況や待機情報の報告、コロナ感染症についての対策、身体拘束について等を報告し、意見交換と情報交換を行っている。コロナ禍のため、利用者及び家族は出席していない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの実態等を理解してもらうために、自己評価と外部評価の結果を提出し、報告している。	運営推進会議には、市の介護保険課が出席して情報提供や助言をいただいている。また、市にホームのパンフレットを配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員は身体拘束の内容を理解し、拘束は行わないという姿勢で、日々のケアを提供している。やむを得ない場合は、記録する様式がある。また、玄関は施錠せず、自由に入出りできるようにしている。自動ドア等は時間を決めてオープンにしている。	法人全体で事故対策委員会が設けられており、その中で定期的に研修会が開催され学習と現場における確認等を行っている。また、運営推進会議では身体拘束に関することを報告している。玄関の自動ドアは、11時から12時と14時から15時は自由に入出りできるようにしている。現在は外出傾向の入居者はいないが、察知したときは職員が声掛け等を多くしたり、付き添って園庭の散歩をする等の支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、虐待防止に努めている。また、日々のケアの提供場面を観察する等、虐待を未然に防ぐように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修や内部研修を通して、全職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深めており、取り組んでいきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者のご家族にケアの方針や取り組みを説明し、疑問や意見を引き出している。退居時も十分に説明し、同意を得ている。また、不安が生じないように退居先の情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から思いを察するようにして、利用者本位の運営を心掛けている。不安や意見等については、その都度話し合い、何でも言ってもらえる雰囲気作りを行っている。	管理者は毎週月曜日に回診して、一緒に昼食を摂っている。また、日常の表情や言動等をよく観察して、要望に応えられるように努めている。家族とは、面会時等に何でも話してもらっている。現在はコロナ禍のため面会を制限中となっている。運営推進会議のメンバーに利用者及び家族にも入っていたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者やご家族との信頼関係を築くために、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。新しい職員が入った場合は、利用者に紹介して、利用者から色々なことを教えてもらえるようにしている。	月1回ケア会議を開催し、情報交換や気付きの紹介、意見交換等を行い、より良いサービスに繋げている。普段は申し送り時や連絡ノートを活用し、意見等の共有をしている。法人内で異動が定期的に行われているが、馴染みの関係が損なわれないように配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断を年2回実施し、職員の心身の健康を保つ体制を整えている。利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるように、利用者の状態やペースに合わせたシフトを組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が研修を受講できるようにしている。また、法人の報告会の際に伝達研修の機会を設けている。資格取得のための支援体制もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡会の研修で、同業者と交流して、活動や取り組み等の情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、求めていることや不安を理解している。また、利用者の思いと向き合い、職員が利用者を受け入れてもらえるような関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者のご家族にホームを見学してもらっている。また、安心して納得した上でサービスを利用していただくために、ご家族等と話し合いながら、馴染める工夫をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は、可能な限り柔軟な対応を行っている。また、必要であれば他の事業所のサービスにつなげる等の対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えのもと、日頃から教えてもらえる機会を多くするようにしている。声掛け等にも配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、利用者を支えていくための協力関係を築いている。行事に誘う等、共に支援していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設の行事等を通じて顔馴染みの方がいるため、行事への参加を促して支援している。	生活歴等の中から利用者が大事にしている人や場所を把握し、それらの関係が途切れないように支援している。法人の行事の場は、馴染みの人と会える機会となっているため出席の支援をしている。現在はコロナ禍のため、休止となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を全職員で共有できるようにしている。心身状態や気分、感情等により日々変化することがあるため注意深く見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係を断ち切ることはしていない。引き続き相談に応じる等、付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者視点に立って、意向等の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者については、ご家族や関係者より情報を得ている。	ゆっくりとジェスチャーを交えながら対応している。利用者と信頼関係を築き、思いや希望、意向を把握するようにしている。十分に把握できない場合は、場所を居室に変える等して、安心感を与えて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴等をご家族から情報収集を行っている。利用者のケアに活かすという目的とプライバシーへの配慮を忘れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活面や心理面のほか、できることに注目して、その人全体を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の意見や気づきを職員間で話し合っている。必要に応じてご家族や関係者の意見や気づきも反映させた介護計画を作成している。	ケア会議を毎月1回開催し、介護計画の見直し等を行っている。利用者一人ひとりに関する日頃の気づき等を職員間で出し合い、話し合っている。利用者の状態や意向、家族の希望等を反映させながら、その人らしい暮らしを続けることができるように支援する計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直し時に活かせるように、計画に基づいた記録を行っている。また、日々の暮らしの様子や身体状況について具体的に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援を柔軟に対応し、満足度を高めるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と地域の様々な接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼び掛けている。また、地域包括支援センターが行った「キャラバン・メイト養成研修」に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望するかかりつけ医となっている。定期的な受診のほか、体調変化や心配事があるとき等には、いつでも医療機関に気軽に相談することができる。	これまでの受療状況を把握し、希望する医療機関の受診を支援している。認知症の専門医の受診や訪問歯科による受診がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。併設施設と連携があるため、報告し、協力体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、利用者への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。退院時は、利用者のご家族の希望を受け入れて、対応可能な支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的な健康管理や急変時の対応について利用者やご家族、医療機関と話し合い、意思統一を図っている。重度化や終末期には対応していないが、日々の暮らしの中で状況の変化を見逃さず、重度化する前に早期発見し、早期治療を行っている。	重度化や終末期については対応していないことを家族にも説明して納得を得ている。日常的な健康管理は、管理者による週1回の回診及び常勤看護師によるチェック、体調管理を行っている。また急変時の対応については、利用者や家族、医療機関と話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、緊急時対応マニュアルを作成しており、常に見ることができる。今後は定期的な訓練が必要と考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、日中と夜間を想定した避難訓練を年3回利用者も参加して行っている。また、災害に備えた食糧等の備蓄品を用意している。	日中だけでなく、夜間も想定した具体的な避難誘導策を作成して訓練を実施している。今年、8月にホーム独自で避難訓練、消火訓練を実施、10月には法人の合同避難訓練に参加している。災害発生時に備えての備蓄は、法人で調達、管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を否定したり、拒否しない。声掛けや対応は、ホーム全体で日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。また、プライバシーに配慮して業務を行っている。	曖昧な言動や意思表示を放置したりや否定、拒否せず、よく聞いて接している。また、失禁時や排泄時は、プライバシーや羞恥心に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりやご家族等からの情報により、利用者の希望や関心、嗜好等を把握している。利用者の力量に応じて、自己決定を促す場面づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースやその日の希望、身体、精神状況等に合わせて柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人の意向で決めており、支援が必要なときに手伝っている。希望に応じて、馴染みの理・美容院を利用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は希望や好み、苦手なもの等に配慮している。利用者の状況や意思等に応じて、調理の準備や後片付けを促し、職員と一緒にやっている。また、選択メニューや季節の行事食を取り入れて楽しく食事をしている。	献立は、栄養士と事務員兼務の職員が入居者の好みや苦手なもの等に配慮して作成している。調理は職員が交代で行っている。材料は地域の商店街より調達し、旬の物や馴染みの料理、炊き立てのご飯を提供し、喜ばれている。月1回管理者が同席して一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がメニューを作成している。毎食の食事量と水分摂取量を記録し、状況に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや口腔ケアの声掛けを行い、能力に応じて見守ったり、介助を行っている。また、就寝前には義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁時は、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮し、他の利用者に気づかれないよう速やかに支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを記録、把握してパターンに応じた事前誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。おむつやパットを使用している場合は、おむつの使用を継続するか等の見直しを随時行っている。羞恥心やプライバシーに配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動を働きかけ、自然排便ができるように取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を拒否する利用者には、声掛けや対応等を工夫している。利用者の習慣等に配慮しながら、浸かりすぎや洗身等に対して、適切な支援を行っている。毎日の足浴を楽しんでいる。	温泉が引かれ、常時かけ流しとなっている。週2回の入浴を基本にしているが、希望があればできるだけ応えるようにしている。また、毎日足浴の機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限り日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。一人ひとりの体調や表情、希望等に配慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬等がないように支援している。薬の変更時は速やかに全職員に周知している。また、服薬による状態変化時は記録に残し、ご家族や医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や希望、力量等を把握している。一人ひとりに合った役割や楽しみを促す働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気や利用者の気分、希望に応じて、季節を肌で感じてもらっている。心身の活性につながるように、その日の状態に合わせた支援を行っている。	日常的な外出や散歩、買い物、月1回の行事等で外出していたが、コロナ禍のため制限されている。必要物品等の購入のための買い物支援ができなくなっているため、家族に連絡し、持参してもらう等を電話で依頼して協力を呼び掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て、少額のお金を持っている利用者がある。買い物時に支払いを行ってもらう等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛の電話や手紙を歓迎している。電話をかける場合は、その利用者を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保てるように調度品に配慮している。職員がたてる物音や声はうるさくなく、テレビ等の音量や照明等の明るさは適切である。また、五感や季節感を感じることが出来る工夫を行っている。	ホールは明るく、十分な広さがあり、ゆったりと寛げる雰囲気となっている。ホーム内は、温度計と湿度計を設置し、空調やエアコン、扇風機等により適切に保たれている。また、ホールの窓は大きく、岩木山や田園風景、園庭の木々が季節の変化を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファもあり、気の合う利用者同士で自由に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から愛用していた物や人形、家族の写真等、馴染みの物を持って来てもらっている。また、安心して眠れるように、利用者の使い慣れた寝具を使用している。	家族に働きかけて、馴染みの物を持ち込んでもらっている。持ち込みが少ない場合は、利用者の意向を確認し、行事参加の写真や作品等を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の場所の表示や浴室、廊下等の手すりの工夫をしている。場所の間違いを防ぐために、目印位置の必要性を見極め、個々に合わせて表示する取り組みを行っている。		